

「馬場小室山遺跡フォーラム」第88回ワークショップ

【復興の原動力！パブリック・アーケオロジー2018】

馬場小室山遺跡とまちづくり環境の「かかわり」から、「山田湾文化」の復興パブリック・アーケオロジーへ

＜馬場小室山遺跡研究の新展開—縄文塚(「環提土塚」集落)の終焉から地域文化の解体にみる広域連動の解明—＞

知識・経験・思考・領域等にみられる現代的限界(建て前の×や+)からの知的解放(本音の÷や-)を目指して活動します！

新展開1 (ムロ1) ～ (ムロ5) は以前のレ ジュメ参照	「ムロさま」の 「限界領域」打破 (墓場の公共性にみ る墓式と葬式、及び 「人骨集積」の真相)	馬場小室山遺跡「第51号土壙」から展望する縄文時代の葬墓式と「土器社会論」—「ムロさま」の 「累積型改新土坑墓」と「積葬墓」から探る「追埋設型土器棺集積墓」への途— (ムロ6)「焼葬」(秋田県藤枝遺跡の頭蓋骨無し)、「焼人骨集積」(岩手県蔭内遺跡)、「人骨集積」 (愛知県保美貝塚)と抜歯、そして「髑髏信仰」(長野県宮遺跡の「積葬墓」) (ムロ7)「人骨集積」と抜歯はく犬歯>VSく犬歯+第1小臼歯>の2系列が顕在化 (ムロ8)大宮台地の安行3式「土器集積」と油田遺跡の「土器棺集積」 (ムロ9)乙女不動北浦遺跡の「安行3c式」期再葬墓 (ムロ10予告)「再帰型再葬墓」の風習と巨大「再葬祭場」の出現 (ムロ11予告)「人骨集積」から「土器集積」(祭式と葬式の統合)、そして「土器棺集積」へ
新展開2 (オム1) ～ (オム2) は以前のレ ジュメ参照	「オムちゃん」と 「ムロさま」との 「限界知識」打破	土偶と土面／顔面付土版／人面文土器等の関係、そして容器形土偶／顔壺へ (オム3)「仮面土偶」の発達と「突起土偶」、そして山形土偶の形成 (オム4)印旛沼と仙台湾、そして山田湾まで繋ぐ人面把手の意義 (オム5)「髑髏信仰」と「亀ヶ岡型変相イデオロギー」、そして「ムロさま」 (オム6予告)「祭祀土偶」から「葬式土偶」(祭式と葬式の統合)へ (オム7予告)「髑髏信仰」は「ムロさま」から容器形土偶や顔壺の土坑墓へ
新展開3 (シオ1) ～ (シオ3) は以前のレ ジュメ参照	「シオ(塩)もん」の 「限界経験」打破 縄文時代の製塩土 器は「採鹹・せん ごう土器」が真相！ 固形塩の物流では なく、「大形魚塩蔵 品」・「汽水系塩 煮品」に留まらず、 濃縮海水を内陸 で希釈する「淡水 魚(含む特産ウナ ギ)塩煮」の普及 か？	「製塩土器」の確立から製塩遺跡の操業へ、爆発的普及の晩期社会と「定住制」の定着 (シオ4)下布田遺跡の「製塩土器」在地性は古鬼怒湾型変遷との乖離！／枯れたアマモを特 定の場所に集めて乾燥させる「塩草場」の存在、及び天日と地熱(熱砂)利用の採 鹹・せんごう工程に相応しい「製塩土器」鉢形態の確立 (シオ5)宇都宮市刈沼遺跡からは寺野東遺跡よりも多数の「製塩土器」が検出し、在地で淡水 魚の「塩煮」が浮上。鬼怒川流域の口縁部形態は下布田遺跡とは大きく異なり、古 鬼怒湾型変遷の1系列である口縁部水平ヘラカットが定着 (シオ6)三陸北部における「製塩土器」の年代と系統(1)久慈市大芦Ⅰ遺跡の長胴深鉢形態 と僅かな出土点数に注目した「採鹹・せんごう土器」の提唱 (シオ7)六十軒遺跡の「製塩土器」二者(古鬼怒湾ケズリ系列VS無文ナデ系列)の意義 (シオ8)古鬼怒湾で後期から発達するウナギのブツ切りによる「ウナギ鍋」は塩煮／「採鹹・ せんごう土器」の定着に果たす古鬼怒湾ウナギ塩煮の役割に注目！
新展開4	「タマきみ(君)」の 「限界思考」打破	ヒスイ製勾玉・小玉の晩期流通(関東各地域拠点でも製作)と弥生時代中期中葉「再葬壺棺 墓」への流通実態(上越周辺北信経由)解明 (タマ1)熊谷市飯塚南遺跡の土坑墓出土ヒスイ製勾玉と飯塚遺跡群 (タマ2)長野県坂城町保地遺跡の抜歯人骨とヒスイ製垂飾品の年代【『利根川』39】

1.【地域とパブリック・アーケオロジーの底力】：各地域における自然の恵みと基層文化の形成を考えよう！

1-1.「馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム」によるパブリック・アーケオロジー

(1)【「見沼文化」感謝祭2018】：(AM)馬場小室山遺跡のクリーンナップと青空考古学教室

- ・「遺跡の風景がある街づくり」として遺跡活用における市民協働の場を提供して14年目の活動となります。
2005/3:さいたま市指定史跡 → 2015/3:埼玉県指定史跡
- ・参加者にとり記念になるようなインスタレーションや地域の遺跡に関心を深めて頂くべくコミュニケーションを工夫したい。
- ・青空考古学教室では前回の「土器型式」ワークショップで分類しました旧石下町崎房遺跡の資料を用いて縄文時代の人々について学びます。

(2)さいたま市都市局都市計画部みどり推進課見沼田圃政策推進室から「見沼たんぼ見どころガイド2018」発行

- ・昨年の縄文時代に続き、埼玉大学有機農業研究会が「弥生時代から見る！見沼」の魅力」を6頁に亘り特集しました。勿論、何といっても目玉は特徴ある見沼【シャモット】弥生です。

(3)「土器型式」ワークショップ：馬場小室山遺跡のレスキュー資料

- ・ワークショップ参加者が保護した資料を同定します。

1-2.「山田湾まるごとスクール」によるパブリック・アーケオロジー：山田湾に学ぶ復興の原点は郷土を誇れる心！

(1)2018年度の第5回「山田湾まるごとスクール」日程の検討

- ・候補として8/31(金)～9/2(日)を軸にし、その前後の週も含めて検討します。

(2)2018年度交流計画の検討

- ・山田史談会との交流は引き続き「川端弘行コレクション」の整理を通じた学びを深めます。具体的な進め方を検討します。川半貝塚の話が報告書も刊行されているからタイムリーでしょうか。
- ・北浜老人クラブは沢田Ⅰ遺跡の「縄文(原体)の話」と実習、あるいは土偶の話とプラ板でしょうか。
- ・旧大浦仮設住宅で交流した方々には記録集に纏めた移転状況のフィードバックと、パブリック・アーケオロジーとして「山田湾の水産考古学」(①トド・イルカなどの海獣類、②山内清男の「サケ・マス論」の真相、③コンブ漁)を話題とするのが時宜に適っているように思います。サケの不漁問題とコンブ漁については川端会長にお願いしておきました。

(3)「山田湾の蝦夷考古学」理解のために

- ・鉄器と製鉄の研究は山田湾の古代史解明の要となりますので、まずは宅間清公氏が太宮台地の製鉄遺跡について講義しますので、足元を固めましょう。

1-3.【パブリック・アーケオロジー今後のテーマ予定】

(1)パブリック・アーケオロジーの神髄：遺跡の保存や3・11東日本大震災の復興支援活動からの展望

- ・坪井正五郎以来、遺跡や遺物を通じた地域の方々との交流活動にこそパブリック精神は見出せるようです。

(2)ディープデータへの挑戦

- ・馬場小室山遺跡第32次調査報告書の再検討(巨大土壇と土器葬、製塩土器、土製品・石製品など)
- ・取手市上高井神明貝塚出土資料(晩期中葉中空土偶など)の熟覧(報告書刊行後の日程調整中)
- ・縄文時代最後の再葬墓

2.「ムロさま」の頃の再葬墓について：小山市乙女不動北浦遺跡における晩期中葉の再葬墓を再考！

- ・馬場小室山遺跡「第51号土壇」の「人面文土器」を再葬土器棺と考えています。その立場から晩期中葉の遺跡を見直しますと西広貝塚の「鉢被り頭蓋骨」である「逆位(浅)鉢」のように色々と面白い現象が発見できます。前回、乙女不動北浦遺跡の晩期中葉の再葬墓を渡辺 新(2012)「顔面付土版の標準(試案)」『大久保忠和考古学振興基金 2008 年度奨励研究 B-2 研究成果 I 千葉の土偶 研究集会資料集』により、納骨容器の埋納事例として紹介しましたので、今回は葬墓式としての深耕を目指します。

- ・即ち、一次葬墓の一角を再利用する「再帰型再葬墓」作法の提唱であり、既に渡辺新は前回は紹介文で「No. 1土壇墓」を分析し、一次葬 → 一次葬墓の一角に再帰型再葬 に至る手順を具体的に解説しているのです。早速、乙女不動北浦遺跡の「土器葬」を形態学的に見ていきますと、「No. 1土壇墓」、「No. 2土壇墓」、「No. 5土壇墓」、「No. 14土壇墓」、「No. 16土壇墓」の5基が「再帰型再葬墓」に該当します。他の土坑墓も完形土

器が出土しており再葬墓の可能性が高いのですが、今回は埋設土器の中から「骨粉」が検出された土坑墓のみを分析対象としました。

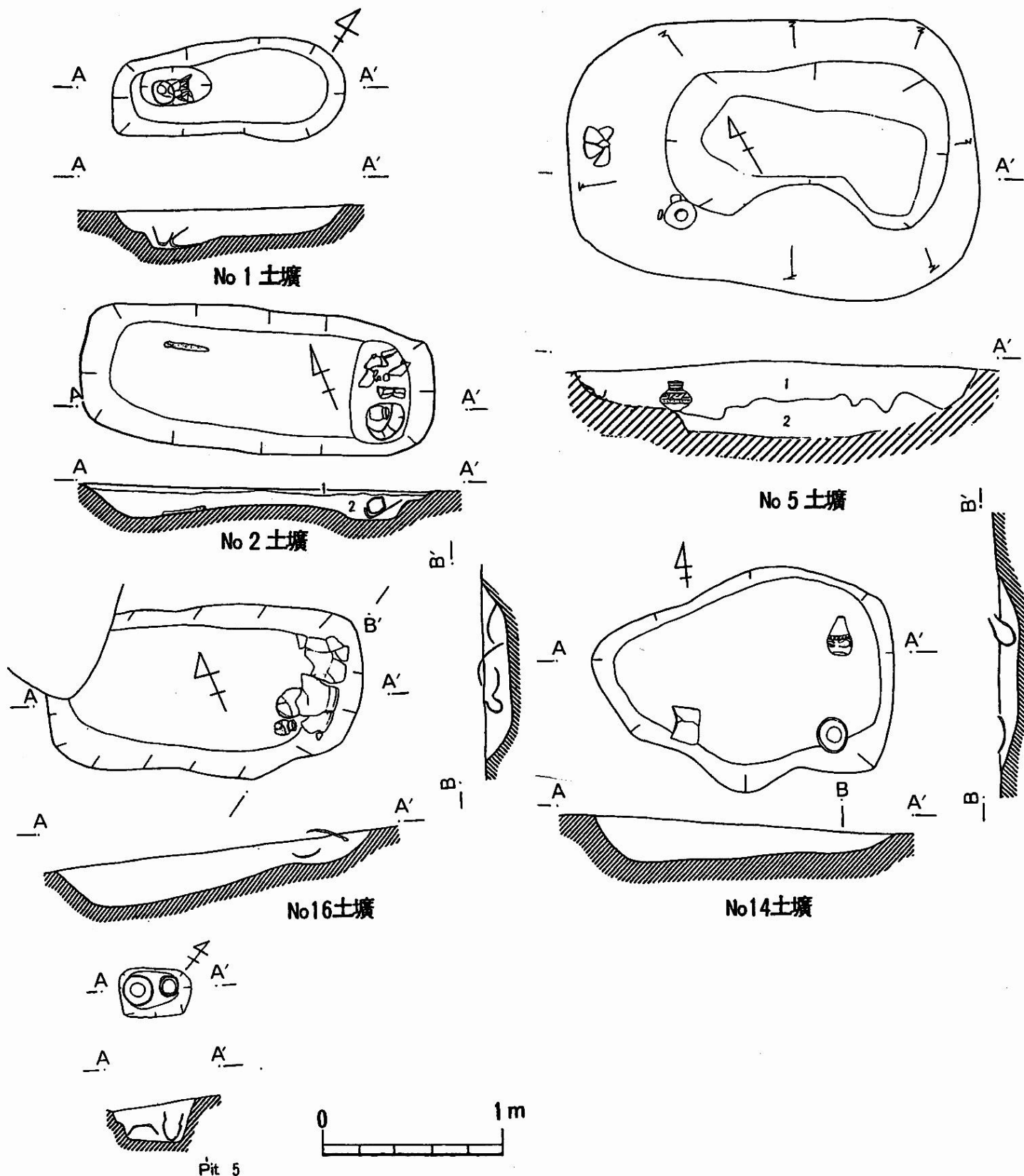
・以上の5基の「再帰型再葬墓」は、更に「土器葬」の形態から2種に大別されます。

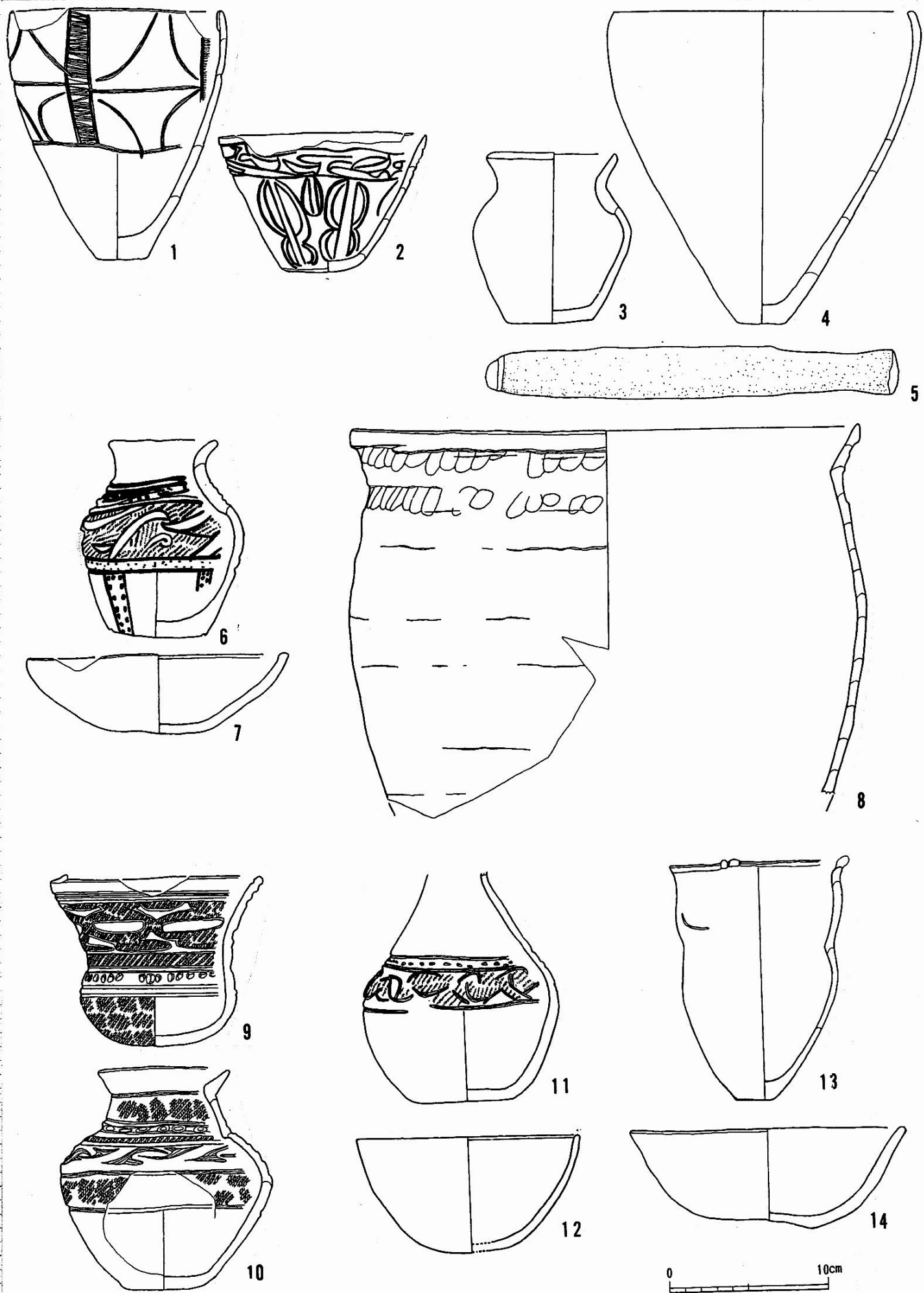
再帰ピット型: 長方形の土坑墓の短辺壁寄りにピットを穿ち、埋設土器を行う作法です。

「No. 1土壙墓」、「No. 2土壙墓」、「No. 16土壙墓」が該当します。

再帰テラス型: 長方形の土坑墓の短辺壁あるいは長辺壁寄りを拡張してテラスを形成し、「土器葬」を行う作法です。短辺壁寄り「No. 5土壙墓」が、長辺壁寄り「No. 14土壙墓」該当します。

・他に「骨粉」例として「pit5」埋設土器形態もあり、西広貝塚と同じ「逆位(浅)鉢」による再葬墓と思われます。

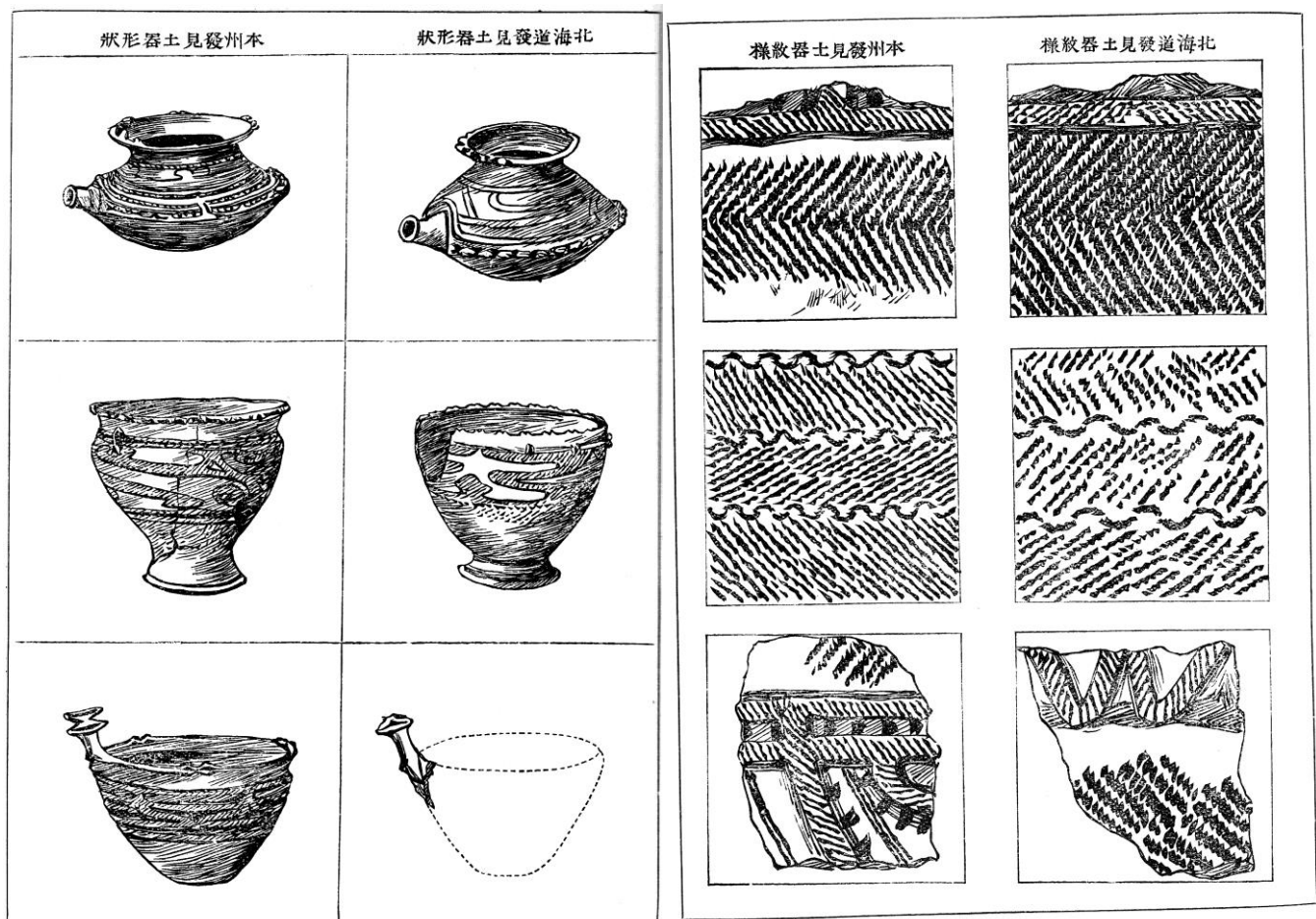




3. 日本考古学における坪井正五郎の役割 : 日本考古学史上の大きな蹉跌からの学び直し

★戦前にその学問が正しく評価されることは無く、山内清男が晩年に読み込みを行い、自らの先史考古学の目的として坪井正五郎に学んだ視点を設定したことはあまりにも著明です。斎藤忠のみが素直に評価しています。

『アルカ通信』No. 136／第1回(2015-1-1)	: 非歴史的な再構成の構え
『アルカ通信』No. 138／第2回(2015-3-1)	: 羅針盤なき航海と新たな地平
『アルカ通信』No. 140／第3回(2015-5-1)	: 進化論の枠組みから社会論へ
『アルカ通信』No. 142／第4回(2015-7-1)	: 西ヶ原貝塚はモースの近代化
『アルカ通信』No. 144／第5回(2015-9-1)	: 土器片研究の指導方針・その1
『アルカ通信』No. 146／第6回(2015-11-1)	: 土器片研究の指導方針・その2
『アルカ通信』No. 148／第7回(2016-1-1)	: 土器片研究の指導方針・その3
『アルカ通信』No. 150／第8回(2016-3-1)	: 椎塚貝塚の加曾利B式
『アルカ通信』No. 152／第9回(2016-5-1)	: モースの層位論と遺物包含地
『アルカ通信』No. 154／第10回(2016-7-1)	: 定量的選択と定性的相異の振り子
『アルカ通信』No. 156／第11回(2016-9-1)	: 「椎塚形」とモースの土器区分
『アルカ通信』No. 158／第12回(2016-11-1)	: 世界に伍する日本考古学の確立
『アルカ通信』No. 160／第13回(2017-1-1)	: モースの定量的選択と分類の曙光
『アルカ通信』No. 162／第14回(2017-3-1)	: クロス土器と標本の新たな役割
『アルカ通信』No. 164／第15回(2017-5-1)	: 椎塚貝塚の巨大深鉢と粗製土器
『アルカ通信』No. 166／第16回(2017-7-1)	: 日本石器時代総論に向けて
『アルカ通信』No. 168／第17回(2017-9-1)	: 中間二立チ其連鎖トナルベキ遺跡
『アルカ通信』No. 170／第18回(2017-11-1)	: 「コロボックル風俗考」への転換
『アルカ通信』No. 172／第19回(2018-1-1)	: 「コロボックル風俗考」の落し物
『アルカ通信』No. 174／第20回(2018-3-1)	: 「コロボックル風俗考」による革新
『アルカ通信』No. 176／第21回(2018-5-1)	: 「標本たるの価値」を超えて



4. 【その他情報交換など】 : 自由な意見交換とワイン・アーケオロジー

以上